

平成31年度(令和元年度)市民まちづくり提案事業(市民活動促進部門) 事業実績1

事業者	団体名	キラキラ☆楽団	代表	長戸 聖一
事業内容	助成事業名	キラキラ☆楽団 第20回記念演奏会		
	事業目的	<p>音楽を通じて、より文化活動を身近なものに感じてもらい、さらには鳥取市内を中心に活動する音楽団体として音楽文化活動を通したまちづくりに貢献していくことを目的とする。そのために、第20回という節目の演奏会において新しいチャレンジを多く取り入れ、地域の音楽文化活動に目を向けてもらう機会を生み出す。</p> <p>また、地域における活動の場を広げることで、人々の音楽鑑賞の機会を増やすとともに、音楽活動できる環境を提供していくことを目指す。</p>		
	実施体制	<p>・団員数:31名(活動団員23名・休団者8名)</p> <p>・団長1名、副団長2名</p> <p>・企画局:局長1名、副局長2名、局員5名</p> <p>・広報局:局長1名、副局長2名、局員6名</p> <p>・管理局:局長1名、副局長2名、局員3名</p>		
	事業の内容	<p>実施日:令和元年11月10日(月)</p> <p>対象者:一般市民</p> <p>参加人数:①出演者 団員23名、賛助出演21名、司会1名、スタッフ8名(ステージマネージャー1名含む)</p> <p>②入場者 175名</p> <p>実施場所:鳥取市文化ホール</p> <p>事業概要:吹奏楽コンサート テーマ「アニバーサリー」</p> <p>〈第1部〉クラシックステージ</p> <p>〈第2部〉ポップスステージ</p> <p>第2部では、20回特別企画としてフラッシュモブ、来場者参加型の企画、団員手作りの演出を行った。楽団の活動を紹介するムービー上映や展示も行った。</p>		
	事業の成果	<p>【成果】従来の宣伝(ポスター・チラシ等)に加え、SNSや地域のケーブルテレビ出演でのPRを行った。アンケートの回答によると、初めての来場者も多く、吹奏楽や楽器経験の有無に関わらず、小中学生から60代まで幅広い世代の方に来場していただいた。特別企画も好評で「楽しかった、またやってほしい」という声も多かった。20回記念として、楽団の活動を知り、音楽を身近に感じながら楽しんでいただく機会となったと考える。</p> <p>【課題】出演者、来場者共に若年層(特に20代)が少ない傾向となった。また、会場に対して、さらに多くの集客が見込める。楽団の認知度をさらに高めていく必要がある。</p>		
	今後の活動の展望	<p>今後も鳥取市の市民活動団体として、地域に根ざした音楽活動を行っていく。地域のイベントに積極的に参加し、音楽活動を通してまちづくりに貢献する。今回の演奏会のように、活動の集大成として文化施設での定期演奏会も継続して行っていきたい。</p>		
費用	総事業費	445,736円	助成金額	200,000円

平成31年度(令和元年度)市民まちづくり提案事業(市民活動促進部門) 事業実績2

事業者	団体名	東中学校区心豊かな子どもを育てる会	代表	中西 照典
	助成事業名	みんなで育てる安心・安全な地域づくり事業		
	事業目的	<p>地域(修立・稲葉山・岩倉地区)・学校(東中、修立小、稲葉山小、岩倉小)・PTA(4校)が①子どものための地域づくり部会、②子どもの問題への理解部会、③子どもたちとの実践活動部会に分かれ、東中学校区の四つの小・中学校と地域が手をつなぎあい、子どもの健全育成を目的に活動を行っている。4校では、「他社との関わり合いの中で人の気持ちを思いやり自分の良さに気づく児童・生徒の育成を図る」重点目標がある。</p> <p>地域・学校が一体となり子どもたちを支える取り組みを行っている当会は、「家庭や地域で「役立つ」ことのできる子どもたちの育成」を目指し、防災教育を通して、子どもの目線で「各校区の危険個所などの発見をすることで、命を守るためにはどうすればよいか、災害時に何をすればよいか」を考える。</p> <p>事業の実施により、地域とのつながりや地域の魅力を再認識し、地域と子供たちの一体感に資するとともに、一人でも多くの子どもや大人の防災意識が高まり「安全で安心」な暮らしを築けるまちづくりを目指す。</p>		
	実施体制	<p>会長1名 副会長4名 会計1名 監査2名 事務局長1名 庶務2名 事務局員6名 企画部長1名 推進員約100名</p>		
	事業の内容	<p>1 防災を学ぼう (1)防災学習(岩倉小) 6/18 参加者:児童458名、教職員20名、推進委員18名、地域ボランティア14名 内容:1年生…新聞紙スリッパの作成 2年生…牛乳パック食器作成 3年生…けむり体験 4年生…段ボールトイレ作成 5年生…DIG(災害図上訓練)体験6年生…自衛隊講話、ロープワーク</p> <p>(2)防災学習(稲葉山小) 6/21実施 参加者:児童199名、教職員20名、推進委員18名、地域ボランティア3名 内容:1年生…新聞紙スリッパの作成 2年生…牛乳パック食器作成 3年生…けむり体験 4年生…段ボールトイレ作成 5年生…DIG(災害図上訓練)体験6年生…自衛隊講話、ロープワーク</p> <p>(3)消防署員による講話(修立小) 9/3実施 参加者:児童288名、教職員20名、推進委員5名、PTA5名</p> <p>(4)5年生DIG(災害図上訓練)2回目(稲葉山小) 10/4実施 参加者:児童33名、教職員1名</p> <p>(5)パネル展示 福島民報「福島の記録」 10/4~10/7 稲葉山小 10/9~10/10 岩倉小</p> <p>(6)5年生DIG(災害図上訓練)2回目、保健師による防災講演会 テント、マンホールトイレ設置体験(岩倉小) 10/10実施 参加者:児童77名、教職員6名、推進委員14名、地域ボランティア3名</p> <p>(7)5年生DIG(災害図上訓練)3回目(稲葉山小) 10/29実施 参加者:児童33名、教職員2名、推進委員8名、地域ボランティア1名 内容:4グループに分けて地域を歩き、危険個所の発見、確認、記録</p> <p>(8)5年生DIG(災害図上訓練)3回目(岩倉小) 11/21実施 参加者:児童77名、教職員6名、地域ボランティア1名 内容:4グループに分けて地域を歩き、危険個所の発見、確認、記録</p> <p>(9)防災発表会 参加者:①岩倉小(児童77名、教職員6名、推進委員3名)</p>		
	事業の成果	<p>防災教育を本会の推進委員(教職員、PTA、子ども会育成協議会、青少年健全育成指導員、民生委員、主任児童委員、地域推薦)がゲストティーチャーとして子どもたちに学習する、いわゆるキャリア教育の一環で取組が行われた。本会の推進委員、地域ボランティア、学校が一体となって危険場所や防災重点箇所などの調査や新聞紙を使ったスリッパや牛乳パックを使ったトイレづくりなど、祭儀時に必要な知識、技術を学ぶ。知りえた知識、感じた意見などを発表し、校区内で災害時どのように行動するかコーディネーターを招き話し合う。これらの活動を通して、児童生徒のみならず地域住民の参加により地域全体の防災力のアップにつながることを期待でき、更には人と人が触れ合いながら、子どもたちの豊かな心を育む地域の輪が広がり、みんなで安心</p>		

	今後の活動の展望	<p>給水活動、テント梁などの実践を中心とした防災デイキャンプについては、継続的に毎年秋に実施する予定としており、今年度新たに学校に出向き、全学年を対象とした防災教育では「震災はいつでも起こるものだ」という意識を常に持ち続け、「実際震災に見舞われたとき何をすればよいか」を中心に考えることができる。毎年コーディネイトのアドバイスや評価を受け、内容の見直しを図りながら充実させていく。</p> <p>こうした防災教育を継続し、各人の防災意識・地域の総合的防災力の向上に努め、学年が上がっても各々の学年に応じた防災教育を実施していくことにより、地域の総合的防災力の向上に努め、地域と子どもたちの一体感を高め、地域とともに活動していく中で、自分たちの住む地域も人も愛することができる子どもたちのふるさとづくりにも役立てたいと思います。</p>		
	総事業費	169,208円	助成金額	118,000円

平成31年度(令和元年度)市民まちづくり提案事業(市民活動促進部門) 事業実績3

事業者	団体名	多言語国際交流サポートTIA	代表	景下 明美
	助成事業名	TIA設立15周年記念イベント 講演会&テーブルトーク		
	事業目的	鳥取が急速にグローバル化していく中で、私たち市民が在住外国人の方々と同触れ合い、何が出来るかを考える機会にする。		
	実施体制	<p>TIAメンバー45名 役割:企画、運営、進行、全てTIA実行委員とその他メンバーによる。ただし、チラシ、パンフレットのデザインなど外部の専門家に助言を求める。 人員:イベント実行委員8名とTIAメンバー</p>		
	事業の内容	<p>実施日:2019年11月23日 11時~16時まで 対象者:鳥取市民、学生、在住外国人 合計120名 実施場所:とりぎん文化会館第2会議室 事業概要:鳥取大学Kip・ケイツ名誉教授による基調講演は、多くの人が魅了される内容だった。鳥取に長く住まれた豊富な経験と、専門である地域コミュニティのあらゆる側面からのお話は大変興味深いものであった。また、8か国のブースでは、来場者と和やかにトークを楽しみ、次はいつ開催されるか等のアンケートが多く寄せられていた。</p>		
	事業の成果	<p>主催者の創造をはるかに超える成功で多くの市民が国際交流、異文化理解に関心が深いことを改めて実感した。 この機運が一時的なものではなく継続的に幅広く広がることを祈っています。</p>		
	今後の活動の展望	<p>今回のこの大規模なイベントは、一民間団体が実施するには負担が大きく、行政サイドで企画・運営すべきとの声が来場者の一部から聞き、また、アンケートにも同じような内容が多く寄せられていました。</p>		
	総事業費	292,541円	助成金額	200,000円